

第9次地域農業振興計画

(2022年度～2024年度)



となみ野農業協同組合

〒939-1388 富山県砺波市宮沢町3番11号
TEL(0763)32-8600 FAX(0763)32-8644
☑ www.ja-tonamino.jp ☑ info@ja-tonamino.or.jp

は じ め に

国内農業は人口の減少や食の多様化により、主食用米の需要は年々減少している中、「需要に応じた米生産」に地域一体となって取組み、米価の維持に努めてきましたが、令和2年初頭から猛威を振るった新型コロナウイルス感染症等の影響で、経済活動の停滞やインバウンド需要の喪失による米の過剰在庫から、米価は大幅に下落し、令和3年度の農業経営は厳しいものとなりました。

第8次地域農業振興計画では、「生産販売体系の確立」と「農業者の所得増大」に向け、実需者ニーズに応じた「なみ野米の生産」として、業務用米等の複数年契約による生産拡大やたまねぎを中心とした複合経営の強化に取り組

目 次

1. 現状と課題

【3P～5P】

2. 第8次地域農業振興計画を振り返って【6P～12P】

3. 第9次地域農業振興計画

【13P～22P】

1) 基本方針と基本戦略

①「5つの富山県 No.1 を目指して！」

2) 戦略課題と実践方策

①農業所得増大の取組み

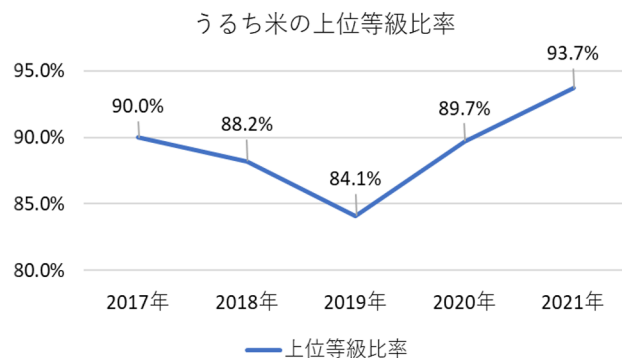
②農業生産拡大の取組み

1. 現状と課題

(1) 上位等級比率の向上

令和3年産うるちの上位等級比率は93.7%と、目標の90%は達成したが、登熟期間中の日照不足により収量は減収となった。

近年は、稲の生育期間中の高温や長雨等の異常気象も多発しているため、品質や収量の安定生産を図るためにも、土づくり推進事業を活用して土壌診断を行い緑肥や堆肥、土壌改良資材の施用を更に意識付けする必要がある。



(2) 種子の合格率向上

全国一の水稲種子流通量を誇る採種地域として、栽培から調製・出荷までの工程管理に細心の注意を払い、種子の純度保持にDNA鑑定を継続し優良種子の生産に努めてきた。今後は、最新のプラント施設の導入による調製能力を向上し、全国一の種もみ生産・販売量を強化していく必要があります。

(3) 担い手の育成・確保

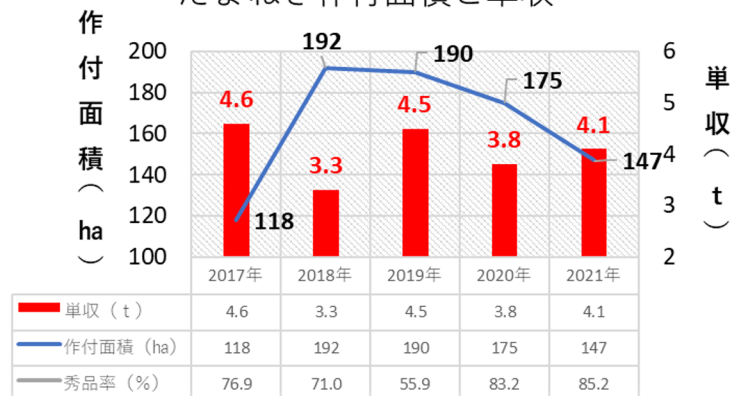
農業従事者の高齢化や労働力不足による離農者が増える中、担い手農家の育成と併せ、新規就農支援や営農組織の再編、新たな労働力の確保へ向けた支援が望まれている。

(4) 園芸作物の生産拡大

たまねぎの生産振興を中心に園芸品目の生産拡大を推進してきたが、所得の確保へ向けた品質重視の作付へ誘導を図ったことから、面積は減少したが、秀品率は85%を超える結果となった。

今後は、経営実態に即した機械の導入と面積の拡大を図るべく推進を行う。

たまねぎ作付面積と単収



(5) 農業者の所得向

上に向けた有利販売の実現

実需者ニーズに応えるため直接販売を積極的に進めるとともに農業者の所得向上に寄与するため、安定した需要の見込める業務用米を中心に、複数年契約や事前契約による有利販売に積極的に取り組んだ。

引き続き、複数年契約や事前契約を積極的に取り組み農業者の所得向上に努める。【業務用米の取扱量の推移】

令和元年	令和2年	令和3年
2万6千俵	2万7千俵	3万3千俵

(6) 農産物直売所「となみ野の郷」を活用した地産地消の推進

新鮮さと品質にこだわった商品づくりを行うよう生産者と共に努めた。コロナ禍の影響を受け、イベント等の開催は制限された状況ではあったが、外食制限等から内食需要の増加により来客者、販売高が拡大し、地産地消の推進と農業所得の向上に繋がった。

又、新たにトルコキキョウの栽培を開始する経営体の増加などにより、お盆の切花即売会での販売力向上、農業所得の向上に繋がった。



(7) 農産物直売所「となみ野の郷」の集客力強化

直売所の集客向上を図るため利用者アンケートを実施し、消費者のニーズに応じた規格づくりや品揃えに取り組むと共に、集客数と販売高の拡大を図るため店舗の拡張に取り組みました。また、良質で安心安全な農産物を消費者へ提供するため、栽培記録簿の記帳徹底と残留農薬調査を定期的に行った。

引き続き消費者ニーズに応えるための新鮮で旬な農産物の確保と定期的なイベントの開催により集客力強化を図る。

【農産物直売所「となみ野の郷」 取扱高の推移】

令和元年	令和2年	令和3年
273,968 千円	280,284 千円	286,600 千円

(8) 農業機械事業の強化(サービス強化)

管内6ヵ所のセンターを農業機械センターとして統合し、広い整備棟では高性能化する農業機械の整備に専門スタッフが対応し、生産者向けのメンテナンス講習会や安全作業講習を開催しました。今後も、最新農業機械の情報提供や、実演会、研修会を開催し生産者の技能向上に取り組めます。



(9) 環境に配慮した取り組み

マイクロプラスチック等による海洋汚染が大きな問題となる中、現行の肥効調節型肥料から、自然界で容易に分解される素材を使用したJコート肥料等へ順次切換えを行ってきた。また、農業用廃棄プラスチックや廃農薬の回収を行い、環境に配慮した取り組みを行ってきました。引き続き環境に配慮した取組を実施強化していく必要がある。

(10) J A青年部・J A女性部の活動について

地域との繋がりが希薄となる中、各地域の青年部を中心に庭木防除や園芸作物の生産活動を実施してきた。女性部においては、地元食材を活用した料理講習会等（伝承料理の継承活動）や青年部と協力した農業体験活動（食農・食育活動）を実施してきた。今後もコロナ禍の中、活動範囲・内容を検証しながら青年部・女性部活動を実施してまいります。

（11）組合員の健康と長寿社会への支援

日帰り人間ドックの受診を推進し、厚生連や女性部と連携して健康教室を進めてきた。今後も、生活習慣病の予防や健康管理活動を継続的に取り組んで、長寿社会を支援していきます。



2. 第8次地域農業振興計画を振り返って

1. 実需者ニーズに応じた「となみ野の米と種もみ」の生産

（1）高品質・高収量なとなみ野米の生産

① 積極的な土づくり（珪酸質資材・堆肥）の推進

農業生産の安定を図るとともに、高品質・良食味で安全・安心な農産物を供給するためJA単独の「土づくり助成事業」を活用し、「土づくり運動」を実施した。

【事業目標】

土づくり助成事業（R3年度）	目 標	実 績
----------------	-----	-----

珪酸質資材施用 面積(ha)	3,500	2,250
堆肥(牛糞)施用 面積(ha) (鶏糞)	1,500	846 (1,200)

『土づくり推進事業（JA単独事業）内容』

- ・地力増進作物（緑肥）の種子代に対する半額助成
- ・JAとなみ野堆肥舎の堆肥散布量に応じた助成 1,500～2,500 円/1 台
- ・土壌分析費用の半額助成
- ・JA重点推進土づくり資材（ケイ酸質資材・加里質資材）の特別価格設定

② となみ野米の品質・収量の向上

「元気なとなみ野米」の生産と業務用米を始めとする売れる米づくりの推進。

【推進目標】

上位等級比率（R3年度）	目 標	実 績
等級比率（%）	90	93.7

③ 環境に配慮した水稻肥料の導入

マイクロプラスチック等による海洋汚染が大きな問題となる中、現行の肥効調節型肥料から、自然界で容易に分解される素材を使用したJコート肥料等へ順次切り換えを行ってきた。



（2）省力化・低コスト化に向けた取り組みと担い手育成

① ICT等、先進技術の検証と導入

農業従事者の高齢化と人手不足が進む中、ドローン、自動操舵田植機、無人トラクター等のスマート農業機械の展示会、実演での体感を通じ普及が進んだ。また、密苗等の導入研修会を実施し低コスト農業を推進してきた。

【R3年までの実績】

J A となみ野のドローンの普及状況	備 考
--------------------	-----

・ドローン導入台数 : 56 台	J Aからの導入累計台数
・ドローン免許取得者 : 70 名	J Aを通じた免許取得者累計

【助成事業】スマート農業導入支援事業（機器等導入支援）

R1～3年の助成件数39件

・RCボート、ドローン、GPS田植機、等

年度	助成額（千円）	件数
R1	1,700	17
R2	1,100	11
R3	1,100	11



② J Aとなみ野が主体となった担い手の育成・確保

○J Aとなみ野 新規就農研修生 制度を策定。

地域農業の発展へ向け新規就農者の育成や支援を目的に、研修期間は、原則2年間、主穀作、園芸（玉ねぎ、小松菜等）作物の実践研修、技術指導、経営研修、座学に取組み、自立経営（就農）や法人、経営体への就農を支援した。

○農地中間管理事業を活用した担い手農家への農地集積

市町村名 (令和4年3月現在)	担い手農家数 (利用者数)	中間管理事業を介した 総面積 (ha)
砺波市	151	1,302
南砺市	71	635

(3) 水稻種子の生産性・品質向上

① 計画的生産による「となみ野種子」ブランドの確立

日本一の種もみ流通量を誇る産地として、栽培から調製出荷までの工程管理を徹底し、優良種子の生産・販売の実施に取り組んだ。

令和3年度は需要動向を踏まえ、早生・中生・晩生36品種についてバランスのとれた作付けにより、高品質な種子の安定供給を図った。

【推進目標】

作 型	早 生	中 生	晩 生
目標作付比率 (%)	20	60	20
現況作付比率 (%)	16	66	18

②需要に応じた品種選定と生産量の確保

多様なニーズに対応するため、新しい品種の開発が進められる中、種子生産地として責任ある生産に努めた。

基準生産単収（うるち 500 kg/10a：もち 450kg/10a）

【実 績】

単収 (kg/10a)	うるち	もち
5 中 3 (H29～R2)	551	499
R3	551	510

③合格率の向上

適切な栽培指導により、合格率の向上を図り、種子生産農家の経営基盤の強化と、となみ野種子のブランド力向上に向け、品種毎の生育状況に応じた栽培情報を発信してきた。また、的確な作業指導の実施や色彩選別機を活用した丁寧な調製作業により合格率向上に努めた。

【推進目標】

種もみ合格率（R 3 年度）	目 標	実 績
合格率 (%)	90	88.1

（４）コスト低減型資材の提案推進と予約注文徹底

担い手農家を中心に提案型訪問推進と予約注文の徹底により生産コストの低減に努めた。

【令和４年産資材の早期予約注文（提案）実績】

- ・肥料メーカーからの生産者直送の提案
- ・生産者による肥料の自引きの提案
- ・水稻除草剤の担い手直送規格の提案

推進品目	目標額 (千円)	実績額 (千円)	達成率 (%)
肥料直送	29,458	63,763	216
肥料自引	7,435	10,834	146
農薬直送	13,781	42,581	309
合 計	50,674	117,228	231

(5) 生産者へのサービス強化

①最新農業機械を体感してもらえる実演会の開催

【実演農家数】

【3年間を通しての評価】

年度	件数
R1	91
R2	76
R3	87

生産者の圃場へ持込む実演会を開催し、生産者が求める農業機械の性能を体感していただけた。特に直進アシスト機能を有するトラクターや田植機については実演の要望が多く、導入される生産者が増加した。

②農業機械のメンテナンス講習や安全講習の実施

農業機械センターを会場に、機械のメンテナンス講習会及び安全講習会を開催した。

【3年間を通しての評価】

アンケート結果から、継続した講習会の開催を要望されることから、今後も生産者が自ら行えるメンテナンス講習会を中心に開催していく。

II. となみ野型複合経営の推進による農業所得の増大

（１）作物に適した圃場づくりと生産工程見直しによる単収・品質の向上

①大麦跡＋緑肥の組み合わせによるたまねぎ栽培の取り組み

大麦跡の緑肥栽培など耕種的な排水対策と土づくりを実施した。

②たまねぎの単収・品質の向上対策

栽培に適した圃場の選定や、定植前後の排水対策の徹底、適期の防除、適期収穫により単収・品質の向上に努めた。

【 推進目標 ： 単収 5.0 t、秀品率 80% 】

年度	単収	秀品率
R 1	4.5	55.9
R 2	3.8	83.2
R 3	4.1	85.2

（２）育苗ハウスを活用した新たな園芸品目の創出

①小松菜等の軟弱野菜生産への取り組み誘導

○育苗ハウスを活用した小松菜等の栽培。

【令和３年度の実績】

生産者数 (戸)	栽培面積 (a)	市場出荷数量 (t)
11	96.2	27



②市場動向を見据えた新たな品目への取り組み

新たな品目として、にんにく、さつまいもを試験栽培し導入に向けた検証を行った。

Ⅲ. 実需者と連携した有利販売の実現と新たな販路開拓

(1) 農業者の所得増大に向けた有利販売の実現

①実需者との連携による契約取引の拡充

R 3 年度	品 目	目 標	実 績
【受託販売】 (千円)	農産物	2,716,000	2,790,000
	畜産物	448,000	473,000
【買取販売】 (千円)	米	3,024,000	2,595,000
	大門素麺	115,000	119,000

(2) 農産物直売所の集客力強化

【農産物直売所となみ野の郷 生産者協議会販売高実績推移】

年度	売上実績(千円)	前年比 (%)
R 1	155,149	101.7
R 2	169,707	109.4
R 3	162,315	95.6

①マーケットインに基づく生産販売体制

の推進

農産物直売所において利用者アンケートを実施。その結果を生産者と共有し消費者ニーズに



応えた品質、規格、品揃え等に努めた。

②鮮やかで良質な商品づくりと安心・安全の取り組み強化

安心・安全の取り組み強化のため、良品質な野菜づくりと栽培記録簿の記帳徹底し、残留農薬調査を定期的に実施した。



(3) 基幹施設の円滑な利用と安定供給

① 早・中・晩の計画的な作付けによる施設利用率の向上

品種構成や、作付けに合わせた施設への誘導により、生産者の利便性を図り、施設利用率の向上に努めた。

【 R 3 年度 施設利用率 】

	砺波 C E	福野 C E	井波 C E	砺波 R C
施設利用率	71.4%	71.5%	69.1%	60.8%
平 均	70%			

※ R 3 年度は、登熟期の日照不足の影響で富山県の作況は 9 9 % となった。

② 穀粒判別機を活用した基幹施設の品位認定

各基幹施設において、穀粒判別機を導入し品質を考慮した買入を実施した。

③ 適正な農産物検査の実施

農産物検査員の育成と運営体制を整備し、迅速かつ適正に農産物検査業務を実施した。



④ 担い手農家向けのフレコン荷受の対応

生産者の労力軽減と生産コストの削減の為、担い手農家へ紙袋からフレコン出荷への切換えを推進した。

【生産者の出荷数量割合】

年度	紙袋出荷割合 (%)	フレコン出荷割合 (%)
R 1	77.0%	23.0%
R 3	67.5%	32.5%

3. 第9次地域農業振興計画

1) 基本方針と基本戦略

【基本方針】

『農業経営基盤の強化と産地競争力の向上による魅力あるとなみ野農業の確立』

【 ～活力と魅力ある地域農業の創造を目指して ～ 】

新型コロナウイルス感染症の拡大は、世界的な経済活動の停滞を引き起こし、中食・外食需要の激減から、米をはじめとする農産物の需給バランスが崩れ日本の農業生産に多大な影響を及ぼしております。

【基本戦略】

Ⅰ.農業所得増大の取組み

Ⅱ.農業生産拡大の取組み

Ⅲ.地域活性化(貢献)への取組み

【5つの富山県 No.1 を目指して！】

- 1.となみ野 米、麦、大豆の収量・品質を高める
- 2.農産物直売所 となみ野の郷
来客数、売上高を増やす
- 3.地産地消、食農教育
学校給食への食材供給率を向上する
- 4.種もみ王国とやま
JA となみ野生産量・品質の安定を図る
- 5.富山の園芸
JA となみ野生産量・販売高を拡大する

2) 戦略課題と実践方策

Ⅰ.農業所得増大の取組み

- (1) 高品質・高収益な「となみ野農産物」の安定生産と
産地競争力の強化

① 高品質・安定生産に向けた土づくりの推進と特 A ランクの確保

定期的に土壌診断を実施し、土づくり処方箋を作成して不足する成分資材の投入を促す。

珪酸質資材・有機質資材（堆肥・緑肥等）の施用を促す。



堆肥と堆肥散布

地力増進作物の施用

J A単独事業「土づくり推進事業」を活用して、生産基盤である「土づくり」を積極的・継続的に推進し、土づくり資材施用率の向上と地力増進を図り持続性の高い農業生産に取り組めます。

【推進内容】

「土壌改良資材の施用・有機物の施用・深耕の実施と排水性の改善」

【J A単独助成内容】

- ・地力増進作物（緑肥）の種子代に対する助成
- ・J Aとなみ野堆肥舎の堆肥散布量に応じた助成
- ・土壌分析費用の助成
- ・J A重点推進土づくり資材（ケイ酸質資材・加里質資材）の特別価格

② 主穀作（米・麦・豆）の Grede Up(品質と収量)による富山県

NO.1 の確立

米の上位等級比率	95%以上 食味ランク 特A)
業務用米単収	つぐばSD2号 10俵/ 10 a あきだわら 11俵/ 10 a
麦の単収	350kg/ 10 a
大豆の単収	250kg/ 10 a

③ 環境と調和した持続性の高い農業の推進 Green イノベーションへの

取組

「環境にやさしい栽培技術」と「省力化に資する先端技術等」を取り入れた「グリーンな栽培体系」に向けた取組として、有機質資材（堆肥・緑肥）を活用した栽培体系（施肥体系）の検証を行い、減化学肥料や減農薬が可能な栽培体系・栽培基準を作成し推進を行う。

国の「みどりの食料システム戦略」に基づく事業の活用も行い進める。

（２）となみ野型複合経営の取組みと魅力ある地域農業の確立

1 億円産地づくり品目を中心とした生産の強化による

富山の園芸産地 No. 1 の確立

目標額／年度	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年
園芸品目の 販売高(千円)	1,200,000	1,300,000	1,500,000
たまねぎ	650,000	705,000	864,000
アルギットに ら	110,000	120,000	130,000
里芋	50,000	53,000	55,000
白ねぎ	20,000	25,000	28,000
その他（出荷野 菜）	370,000	397,000	423,000

① 地域特産物のブラッシュアップと現場指導の強化

地域特産野菜として栽培されている「白ねぎ、里芋等」は潜在的な需要が見込めるものの、生産者の高齢化や労働力不足により作付面積・生産量は年々減少しているが、今一度、問題点や課題を洗い出し新たな生産振興に繋がるよう現場指導を強化する。

② 農地の基盤整備（大区画化と汎用化）によるとなみ野型

農業モデルの Grand デザイン戦略

J Aとなみ野では、農地の基盤整備に伴う大区画化と汎用化を進め、管理面・作業面の効率化と作業時間の削減による生産コストの低減に取り組むとともに、高収益作物（園芸作物）の導入による儲かる農業の実証を通じて次世代モデルの農業プランを提案する。

（３）経営基盤強化へ向けた新たな労働力支援サービスの構築 と担い手育成

①研修制度の充実による担い手育成と新規就農支援

農業の魅力や栽培技術、経営に向けた基礎知識を２年間の研修期間で学び、新規就農に向けた支援を行う。

【応募条件】

- ・富山県在住（定住予定を含む） ※男女不問
- ・年齢 18 歳～50 歳まで（就農予定時の年齢）
- ・就農希望等の内容を相談（面談）の上決定

【研修内容】

- ・受入先：(有)アグリとなみ野（J A出資法人）
※ J A臨時職員として採用し、実務・研修を行う。
 - ・研修内容：主穀作・園芸の現場（実践）研修、栽培技術研修、経営研修等の座学
 - ・研修期間：原則２年間
- ※研修終了後の就農、事業継承等は J Aとなみ野管内とする。

②新たな労働力確保へ向けた支援サービス事業への取り組み

繁忙期間や期間雇用に対応した外部労働支援サービスや農福連携等を活用した支援の構築に向け、関係機関と連携し取り組みます。

また、異業種間連携や農業者同士の労働力シェア等、JAが仲介役となりながら、持続可能な農業生産に向けて取り組みを行う。



③ICT・IOT を活用した効率的な管理技術の普及拡大

リモートセンシングによる圃場診断の実証試験を行い、現場指導や低コスト農業の技術普及を図る。また、GPSを活用した農業機械の普及拡大とスマート農業やICT等を連動させたの情報発信を行う。



(4) 農業者の所得増大に応える販売戦略の展開

① となみ野のブランド力を活かしたリード Generation の強化

	令和4年	令和5年	令和6年
販売高	60億円	62億円	65億円

② 実需者との連携と直販拡大による有利販売の展開

- ・実需者ニーズに対応した、事前契約・複数年契約の取り組み拡大
- ・業務用米の取扱い拡大と需要とマッチングした販売強化

（５）農業者の適期作業に順応した施設運営と運営の強化

① 農業者の適期作業に順応した施設運営

基幹施設（カントリー・ライスセンター）の能力を最大限に発揮させ、多様化している品種を広域にわたって各施設で対応する事で、生産者の利便性を図り利用率の向上に努めます。

（６）トータル生産コストの低減と環境に配慮した取り組み

み

① 資材仕入れ強化による価格競争力の向上を図り、組合員への安定供給に取り組めます。

定供給に取り組めます。

系統仕入れに捉われず、商系との仕入れ価格の比較や営農指導方針に基づく、肥料銘柄の集約や仕入れ条件の見直しに取り組めます。

また、予約注文率を高め物流や保管コストを削減し供給価格への反映に努めます。また、物流改善による資材コストの低減に努めます。

- ・ 肥料メーカーからの生産者直送の強化
- ・ 生産者による肥料の自引きの強化
- ・ 水稻除草剤の担い手直送規格の強化

② 多様なニーズに対応した提案・相談機能の充実

世界的な海洋プラスチック問題や環境・生態系に害を及ぼす農薬等の使用について、使用改善や中止、代用品による対応を強化します。

また、営農指導力の強化を図り、プロ農家から家庭菜園まで、多様な営農相談に対応できるよう営農指導員のスキルアップに努めます。

(7) 水稻種子の生産性向上と最新選別施設導入による品質の安定富山県 NO.1 の種もみ生産量・品質に向けて

① 計画生産と品質管理体制の向上による「となみ野種子」ブランドの強化

日本一の種もみ流通量を誇る産地として、栽培から調製出荷までの工程管理を徹底した優良種子の生産・販売の実施。

	令和4年	令和5年	令和6年
水稻種子 作付面積(ha)	453	450	450
水稻種子 生産量(トン)	2,487	2,500	2,500

② 品種の多様化に伴う新規需要の獲得と対応力の向上

需要に応じた作付品種の選定と市場動向を見据えた新品種生産への対応とプラント整備による供給体制の拡充。

③ 最新選別施設の導入による合格率90%以上と運営能力の向上

栽培指導の徹底により、合格率の向上を図り、種子生産農家の経営基盤の安定と種子ブランドの更なる強化を図る。

- 経営体、集落毎の作業体系を考慮した品種構成計画の実施。
- 生産者へ品種毎の生育状況に応じた情報を発信し、的確な栽培・作業指導の実施および最新の高性能な調製選別機導入による合格率の向上。
- 農地台帳システムと連動した生産管理による施設運営の能力向上。



種もみ圃場の抜き取り

となみブランド認定品目

となみ
種もみ
(水稻種子)

となみ野農業協同組合 稲種部会



II.農業生産拡大への取り組み

(1) 生産拡大に向けた現場指導の強化と有利販売の実現

へ

向けた取り組み

① 生産組織(部会)と連携した栽培技術の向上による産地競争力の強化

実需や生産者の声が反映される部会運営と栽培指導により、技術力を向上し、品質・生産性の強化を図る。

② 需要に応じた契約栽培や複数年契約の拡充と生産

市場（実需）が求める品目の生産拡大と安定供給を図りながら、契約栽培や複数年契約の取組を拡大し、生産者の所得増大に取り組む。

(2) 園芸作物を組み入れた農地の高度利用による

「儲かる農業の実

践」

① 経営規模に即した機械体系の提案と新たな地域内連携による生産拡大

機械の更新や新規導入に際し、経営規模や経営実態に応じた機械の導入の提案や、共同リース、地域内連携による効率的な機械運用により、生産拡大を図る。

たまねぎ	令和4年	令和5年	令和6年
作付面積	136ha	150ha	170ha



② 新規品目の栽培実証による新たな Genre への挑戦

さつまいも、青ねぎ等の新規品目の栽培・販売の実証による経営指標を基に新規生産者の募集を進め面積拡大に繋げる。

③ 高度な土地利用による栽培モデルの確立

農地の有効活用と作物ローテーションの確立により、10アール当たりの所得の向上。

(3) 多様な園芸品目の生産支援

① 生産から販売まで連携した流通・販売体制確立による所得増大

売り先を確保し安心して生産出荷出来るよう、品目毎の生産情報の発信とJAの分化機能強化により生産者の所得最大化に取り組む。

(4) 生産性向上に貢献する農業機械の情報発信と提案力強化

① 作業の省力化・高度化を提案する実演会の実施



スマート農業機械を中心とした作業提案と身近になった自動運転機能を有する機械の検証と情報発信。
体験型の実演会・研修会の開催。

② メンテナンス講習会、安全講習会の実施で農作業事故ゼロ

農作業安全の広報活動を行うとともに、農閑期を利用した、メンテナンス講習会を実施する。



(5) Global な販売戦略と販路の開拓

- ① 海外市場への地域資源の魅力発信
- ② マーケット調査と戦略品目の選定



Ⅲ.地域活性化（貢献）への取り組み

(1) 地域連携による農業の活性化と食の・食育活動の充実

- ① 農商工連携、異業種連携による地域活性化と地産地消
- ② 食農教育・地産地消の取り組み強化と学校給食への食材納入率
富山県 NO.1

【学校給食への地場野菜利用率】

地場産利用率（％）	
令和4年	45
令和5年	55



(2) 地域から信頼される施設運営と周辺環境の保全

① 騒音・粉塵等に配慮した施設運営と継続的な改善

周辺地域に配慮した施設運営に努め環境負荷の低減を実施します。

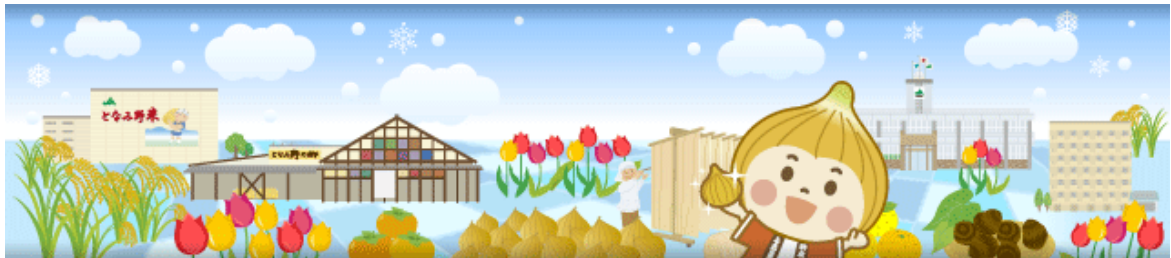
② コンプライアンスを遵守した 3A の展開（安全運転、安全作業、完全管理）

安心・安全な農産物の供給を実現するため、効率的な施設運営と適正保管による均一化、安定化を図ります。

(3) 持続可能な社会の実現へ向けた環境保全活動への取り組み

① 廃プラ、廃農薬回収による環境サービスの充実

農業用廃棄プラスチック回収、廃農薬回収の実施によって環境サービスの充実を図る。



(参考資料)

支店別主穀作付面積（令和 3 年度）

(支店名)	主食用米	備蓄・加工用米	飼料用米	麦	大豆
中央	663.5	59.9	96.9	48.9	162.6
北部	682.9	59.5	1.8	162.2	275.3
庄西	643.3 (142.7)	30.2	51.8	201.2 (95.3)	169 (57.5)
庄東	459.6	26.6	48.2	58.6	49
庄川	300 (300)	7.1	38.3	2.2 (2.2)	84.9 (84.9)

大麦・大豆実績（令和３年度）

大麦（３年 の生産）	作付面積 (ha)	単収 (kg/10 a)	1 等比率 (%)	品質ランク
	824.6	264	100	A
大豆（３年 の生産）	作付面積 (ha)	単収 (kg/10 a)	普通大豆比率 (%)	合格大豆比率 (%)
	1,028	175	0	100

担い手農家数と集積率（令和３年度）

地区名	水田面積 (ha)	認定農業者		集落営農 協業・共同	担い手計	担い手 経営面積 (ha)	担い手 集積率(%)
		(集落営農組合含む)	(うち法人)				
出町	249.4	6	3	2	8	172.2	69.0
五鹿屋	278.0	8	4	0	8	248.8	89.5
東野尻	325.1	12	4	1	13	269.2	82.8
鷹栖	289.0	6	2	0	6	211.7	73.3
若林	269.6	6	4	0	6	242.0	89.8
林	368.8	6	5	0	6	311.2	84.4
高波	373.0	13	10	1	14	326.9	87.6
油田	129.0	2	1	0	2	86.0	66.7
庄下	205.8	10	4	0	10	159.5	77.5
中野	292.1	12	12	6	18	103.6	35.5

お わ り に

社会は、新型コロナウイルス感染症の蔓延により、働き方や人との接し方が大きく変わりました。農業の世界では、農業者の高齢化に伴い労働力不足が問題となって